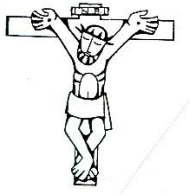
四旬節第５主日　　２０２５年４月　６日



風のように

甘木教会
主任牧師：白川道生　　牧会委嘱牧師：竹田孝一

わたしの主キリスト・イエスを知ることのあまりのすばらしさに、今では他の一切を損失とみています。キリストのゆえに、わたしはすべてを失いましたが、それらを塵あくたと見なしています。キリストを得、キリストの内にいる者と認められるためです。

フィリピ信徒の手紙３：８

【説教要旨】キリストに捕らえられて

キリスト教会の信仰を方向づけたのは、パウロだと思います。そのパウロの気持ちが素直に出ているのが、フィリピ信徒への手紙だと思うのです。ここで、パウロのなみなみならぬ決意を私たちは聞きます。

「**わたしはあなたがたの間で、イエス・キリスト、それも十字架につけられた<u>キリスト以外、何も知るまい</u>と心に決めていたからです。**」と。

パウロの強い意思が伝わってきます。私たちは世の中を生きていくとき、小さなものゆえに、自分を守るために自分を有利な立場に導くために多くのことを知ろうとします。知識を得ることによって自分の安心を手に入れようとします。情報社会にあって、いかに知識をえるかが、私たちの将来を決めます。しかし、これほど私たちが多くの知識を得ても、心から幸せだと言えますか。

自分を有利な立場に導く、支えが欲しいと激変していく社

会を生きているから強く思っていませんか。では、私たちの杖とはなんでしょうか。

お金がないと生きていけない。確かに現実はそうです。具体的な生き方の中で私たちはこれだけのものがなければ、私たちは何も出来ないと言う現実にぶつかります。ですから私たちはより良いもの、より多くを得ようと思うのです。失うことでなく持つということに必死になろうとして、自分自身を複雑化してしまうのではないでしょうか。

パウロは次のように言うのです。

肉にも頼ろうと思えば、わたしは頼れなくはない。だれかほかに、肉に頼れると思う人がいるなら、わたしはなおさらのことです。わたしは生まれて八日目に割礼を受け、イスラエルの民に属し、ベニヤミン族の出身で、ヘブライ人の中のヘブライ人です。律法に関してはファリサイ派の一員、熱心さの点では教会の迫害者、律法の義については非のうちどころのない者でした。

彼は、この世的な多くのものを持っている。これを頼りにして生きようと思えば自分は生きていける。それは信仰においてでさえ「律法に関してはファリサイ派の一員、熱心さの点では教会の迫害者、律法の義については非のうちどころのない者でした。」とあるように立派な誇るものを持っていました。

しかし、今まで自分を支えた、自分に自信を与え続けたこの世のもろもろの杖が、神の前を生きるわたしには全く意味をもたないというのです。

彼は「救い」ということに確信をもって語ります。

「わたしの主キリスト・イエスを知ることのあまりのすばらしさ」

キリストのすばらしさとは、神から離れていこうとする罪人である私たちをどこまでも愛してくださる神の愛、それも、イエスの十字架で示された神の愛こそがすばらしいことだというのです。

だから、「わたしはあなたがたの間で、イエス・キリスト、それも十字架につけられたキリスト以外、何も知るまいと心に決めていたからです。」と言いきるのです。

このすばらしさが、私たちの杖なのです。

私たちが生きていくとき、私たちにはいろいろなことがあり、いろいろな局面に立たされます。そこで、転んでもかまわない。もう一度立てばいい。そう思えるのは杖があってこそだと言うように、真の意味での杖を私たちは神さまから与えられているのです。それは、イエスさまの十字架の愛です。イエスさまもここで神の子として生きることに転んでしまいました。十字架により苦しみを負われ、死において希望を無くしました。しかし、ここに生きる杖、神の愛が与えられているというのです。

「キリストによって救われた」という杖は、私たちの常識を超えています。だから私たちはこの杖をもって従うことがなかなかできませんが、「神の愛によってわたしが救われた」ということに自分を開いていく。徹底的に神の愛に従うことが真の杖です。私たちの常識が教えることはあってはならないこと、十字架の愛から私たちの人生の杖が与えられるのです。

八木重吉は詩います。

基督が解決しておいてくれたのです/ただ彼の中に入ればいい/彼につれられてゆけばいい/何の疑いもなく/こんな者でも/たしかに救って下さると信ずれば/ただあり難し/生きる張り合いがしぜんとわいてくる/むつかし路もありましょう/しかしここに確かな私たちにも出来る路がある/救ってくださると信じ/わたしをなげだします

牧師室の小窓からのぞいてみると

トランプ大統領が、「相互関税」を発表した。そもそも相互関税とは、何なのかということです。「アメリカのトランプ大統領が導入を検討しているもので、貿易相手国との関係において、関税負担が相互に対等になるように関税を課すことを意味します。米国製品に対して高い関税率を課す国に対して、その国からの輸入品への関税率を同等の水準まで引き上げることで、貿易不均衡の是正が実現するとトランプ大統領は主張しています。」（第一生命経済研究所　新家義貴）そして、その不均衡が日本に対して２４％ということである。

誰が考えても可笑しなことですが、これを平気でやってしまうという事を歴史は教えています。歴史からみれば不思議なことではないのですが、この時代を生きる人にとっては、やっかいなことです。つまり、今までの常識は通じないという事を教えられたことです。世は混乱し、終わりが近づいているということです。

「目を覚ましていなさい」というイエスさまの言葉が身近に聞こえてくる時代です。

園長・瞑想？迷走記

保育園デビューをしました。初めて入園式でお話をしましたが、やはり幼稚園とはどこかが違っています。これが幼保連携型認定こども園となるとどうなのだろうか。僅か１０数年で幼稚園も保育園も変化してきた。そういえば、名古屋の時代かかわった幼稚園がこども園を作ったことを思い出した。

そして、理事長をしているH幼稚園が幼稚園型認定こども園に４月、都から認可された。そして、これを幼保連携認定こども園に変えていかないと幼稚園経営は難しくなっていくだろう。時代は刻々と変化している。

日毎の糧

涙と共に種を蒔く人は／喜びの歌と共に刈り入れる。
詩篇１２６：５

「ルターの言葉から」

私たちの心が試練の中でどんな状態にあるかは、このように示される。私たちの心が感じているように、そのように、そのようにここではキリストもご自身をあらわされるのである。そこにはただ否定だけがあるとしか、心で思えないとき、そういうときさえ、それは真実ではない。それだから、心はこのような感情には背を向けて、否定の上や下にある深いひそかな肯定を、神の言葉への固い信仰によって掴み、しっかりと保ち続けなければならない。

「四旬節説教集」

『ルターの言葉』W.シュパルン　湯川郁子訳　教文館

苦難に耐えた人のみの秘儀

この詩篇はイスラエルの歴史のバビロン捕囚からの解放を讃歌しているが「しかしそれはこの詩に歌われている民族的な自由の恢復の場合にとどまらない。人生は涙の谷であり、他の詩人も歌っているように涙は夜昼人間の食物である場合がしばしばである（昼も夜も、わたしの糧は涙ばかり。人は絶え間なく言う/「お前の神はどこにいる」と。詩編４２：４）。涙と共に食を取る経験なき者に人生の何たるかは到底解らぬであろう。しかし、それに耐え抜く者にとって大いなる喜びが彼を待っているのではないか。この短い詩はその平凡にして真実たるわれわれに良く教えている。」（詩篇　浅野順一　岩波新書）

祈り：主よ、苦難に与った者のみがしったあなたの喜びを私の喜びにしてください。アーメン

甘木通信

甘木聖和幼稚園には、桜の木がない。日前幼稚園も同じである。少し、寂しい気持ちになる。広い園庭、どこまでも青い空の甘木聖和幼稚園に似合うと思うのだが。

なぜ、私が桜を印象深く心に留めているのだろうか。思い返せば兄の小学校の入学式を前にして父の会社の上司の方が写真を撮ってくださり、そのとき、継ぎ接ぎだらけの服を着た私を桜の下で写真におさめてくださった。この写真が人生の中で、自分を納得させる唯一の写真である。その背景の桜の木こそもっとも美しく、嬉しい時も、悲しい時もいつも自分と歩んでいた。桜は、私の命だからだろう。

散る桜　残る桜も　散る桜　　良寛

それから６８年が経って、今、ここにいる。そして、体調がいたく優れない。多くの尊敬する先輩、友人、知人、教え子が散っていた。今、私はどうにか残っているが、これも「残る桜も　散る桜」。愛する家内の寝顔を見て、どきっとするほどの死相の出た顔。ただよくここまで散らずにいてくれたと手を合わせるだけ。命は自分ではどうにも出来ない。だから、妻と同行二人で、今をどう生きていくかではないかと思う。

（甘木日記）土）前日、大阪の長男の所に泊めてもらい、６：８の新幹線に乗り、どうにか午後からの「キリスト教講座」に間に合う。受難節、「悔い改めの詩篇」。日）礼拝後、甘木公園で花見、ヤマダ電機でプリンタ購入。月）家内の手の手術。この頃、よく家内は大病をするようになった。春休みといえども、家内の食事を作っていると５時には起きないと早朝保育に間に合わない。火）松崎保育園入式でお話。幼稚園に帰り、事務作業。水）今日から保育室のペンキ塗り作業開始。木）早朝保育、職員と懇談、ペンキ塗りの手伝い。何をしているのか。金）早く行ってペンキ塗りをする。新牧師、新幼稚園設置者と打ち合わせ。

おまけ・牧師のぐち（続日記）牧師だって神さまの前でぐちります。ぐちらない聖人（牧師）もいますが。

（幼稚園に咲いている花々）

土）前日、大阪の息子の家に泊めてもらい、朝は新大阪まで送ってもらい６：８分の新幹線で。10時に家に到着し、主日の準備をするが慌ててするのでミスが多い。昼前に甘木に着き、「キリスト教講座」を開く５名が参加。「悔い改めの７つの詩篇」の学び。私の印象深い、「悔い改めの７つの詩篇」の講解は清重尚弘牧師したものである。東京、大阪、久留米

それにしても何をしているのか自問自答。花冷えして、暖房を強くする。日）礼拝が終わり、甘木公園

に花見に行く。今年の花は薄いように思う。月）神経が通りやすくするための家内が掌の手術。これから一週間は水仕事が出来ないので、洗濯、掃除、料理は私の責任。久しぶりの主夫。感覚を忘れている。だめである。湯豆腐にする。あ（甘木公園）っさりが良いだろう。火）松崎保育園の入園式の礼拝担当。１歳からのこともだから考慮しつつ説教をする。保育園デビ

ュー。そのまま家でゆっくりすれば良かったが鍼灸いったついでに幼稚園にもどる。主任が仕事がいっぱい抱えているようで、こちらの胃に応える。家に帰り、入園式の準備の計画表、式次第を作る。０時を越している。家内のための夕食は久しぶりの生焼きと味噌汁。水）運転手さんに助けられ保育室の塗装、建具の修繕が始まる。みなは、大工、塗装の職人だったということが一緒にしながら分かる。本当に助かる。

新学期は明るい保育室でありたい。金がないので自分でするしかない。大工仕事も終わり、今度は新しく月報を担当されたＴ先生の手伝いでPCに向かう。今日は名古屋名物・みそ煮込みうどんを作る。子どもらが小さい時、よくしたものである。週半ばだが調子はいっこうに治らない。洗濯完了。木）バタバタして落ち着ない金）気づくと幼稚園は花盛り。早く行き保育室の壁のペンキ塗りをし、０時を越して帰宅。